受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「インベスコ　世界厳選株式オープン＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）」は、このたび、第90期の決算を行いました。

当ファンドは日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式を実質的な主要投資対象とし、投資信託財産の長期的な成長を目標に積極的な運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

＜為替ヘッジあり（毎月決算型）＞

第90期末（2021年６月23日）	
基準価額	12,714円
純資産総額	2,669百万円
第85期～第90期	
騰落率	14.1%
分配金(税込み)合計	400円

＜為替ヘッジなし（毎月決算型）＞

第90期末（2021年６月23日）	
基準価額	9,649円
純資産総額	79,174百万円
第85期～第90期	
騰落率	22.0%
分配金(税込み)合計	900円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。

（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞

右記＜お問い合わせ先＞のホームページにアクセスし、「ファンド一覧」等から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

Invesco

インベスコ　世界厳選株式オープン

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）／＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）

愛称：世界のベスト

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第85期（決算日 2021年１月25日）
第86期（決算日 2021年２月24日）
第87期（決算日 2021年３月23日）
第88期（決算日 2021年４月23日）
第89期（決算日 2021年５月24日）
第90期（決算日 2021年６月23日）

作成対象期間（2020年12月24日～2021年６月23日）

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番１号六本木ヒルズ森タワー14階

＜お問い合わせ先＞

お問い合わせダイヤル：(03)6447－3100
（受付時間：毎営業日の午前９時から午後５時）

ホームページ　http://www.invesco.co.jp/

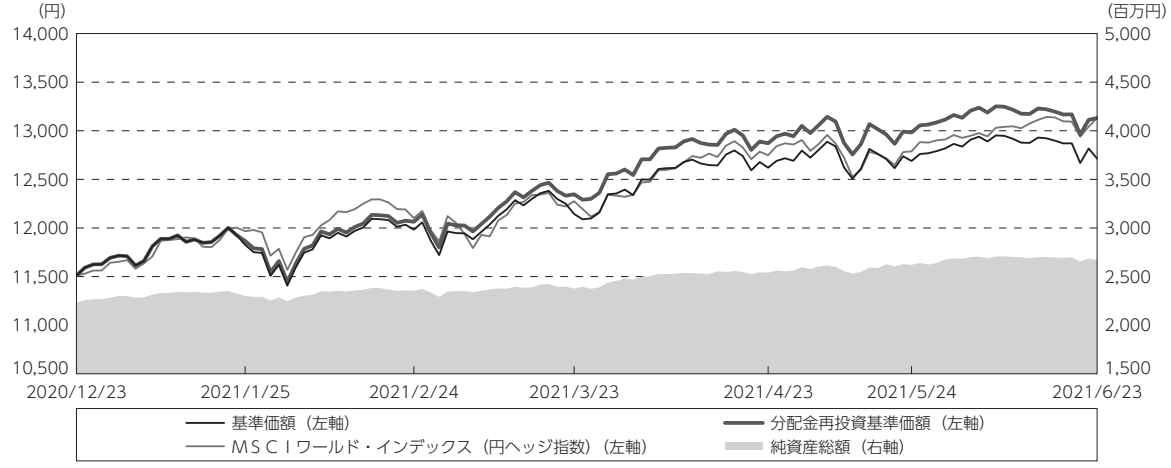
UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

インベスコ　世界厳選株式オープン＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2020年12月24日～2021年6月23日）



第85期首：11,510円
第90期末：12,714円（既払分配金（税込み）：400円）
騰　落　率：　14.1%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）分配金再投資基準価額およびＭＳＣＩワールド・インデックス（円ヘッジ指数）は、作成期首（2020年12月23日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）ＭＳＣＩワールド・インデックス（円ヘッジ指数）は、ベンチマークです。ベンチマークは、今後、他の指数へ変更されることがあります。ベンチマークの詳細は22ページをご参照ください。以下、同じです。

○基準価額の主な変動要因

［上昇要因］

・日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式を実質的な主要投資対象としているため、ポートフォリオにおいて投資対象市場が概ね上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
・独自の財務分析、経営力、ビジネス評価などのファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価などに基づくボトムアップ・アプローチにより銘柄選択を行った結果、ALPHABET INC（米国／メディア・娯楽）、JPMORGAN CHASE & CO（米国／銀行）、ASHTEAD GROUP（英国／資本財）、などの株価の上昇が、基準価額の上昇要因となりました。

［下落要因］

・PROSUS NV（オランダ／小売）、AUTOMATIC DATA PROCESSING（米国／ソフトウェア・サービス）などの株価が保有期間に下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

１万口当たりの費用明細

（2020年12月24日～2021年6月23日）

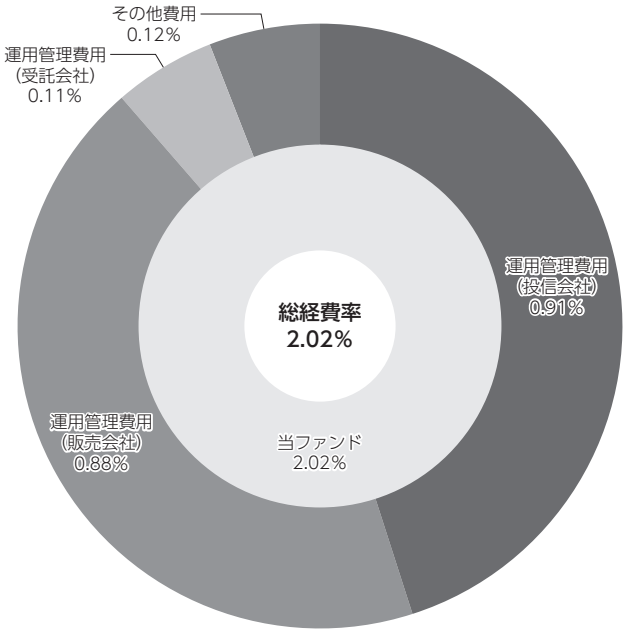
項目	第85期～第90期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	116	0.949	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(56)	(0.455)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
（販売会社）	(54)	(0.439)	購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（受託会社）	(7)	(0.055)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.014	(b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式）	(2)	(0.014)	
（投資信託証券）	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	4	0.036	(c) 有価証券取引税＝作成期間の有価証券取引税÷作成期間の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株式）	(4)	(0.036)	
(d) その他費用	7	0.058	(d) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.003)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.011)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	(5)	(0.044)	印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等
合計	129	1.057	
作成期間の平均基準価額は、12,210円です。			

（注）作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
（注）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第４位を四捨五入してあります。

（参考情報）

◯総経費率

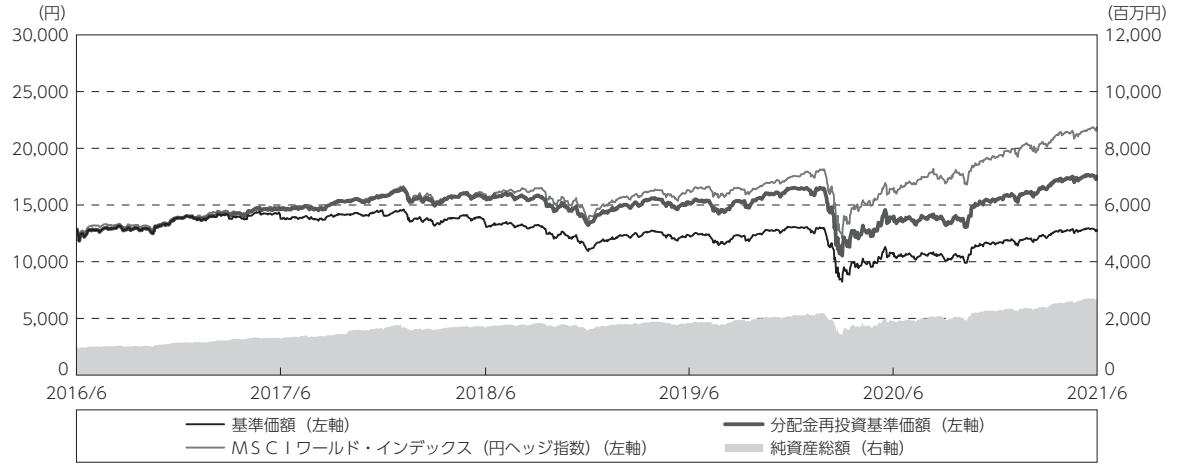
作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.02%です。



(注) 当ファンドの費用は１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
(注) 各比率は、年率換算した値です。
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。
(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近５年間の基準価額等の推移

（2016年６月23日～2021年６月23日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）分配金再投資基準価額およびＭＳＣＩワールド・インデックス（円ヘッジ指数）は、2016年６月23日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2016年６月23日 決算日	2017年６月23日 決算日	2018年６月25日 決算日	2019年６月24日 決算日	2020年６月23日 決算日	2021年６月23日 決算日
基準価額　(円)	12,703	13,786	13,273	12,323	10,658	12,714
期間分配金合計(税込み)　(円)	－	820	1,550	520	560	680
分配金再投資基準価額騰落率　(%)	－	15.1	7.6	△ 3.2	△ 9.2	26.4
ＭＳＣＩワールド･インデックス(円ヘッジ指数)騰落率　(%)	－	16.5	7.8	2.1	0.7	33.1
純資産総額　(百万円)	988	1,270	1,662	1,832	1,902	2,669

（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。
（注）ＭＳＣＩワールド・インデックス（円ヘッジ指数）は、ベンチマークです。

投資環境

（2020年12月24日～2021年6月23日）

ＴＯＰＩＸ（東証株価指数）（日本）	＋10.4%	Ｓ＆Ｐ500指数（米国）	＋15.0%
ＦＴＳＥ100指数（英国）	＋8.9%	ＤＡＸ指数（ドイツ）	＋13.8%
ＣＡＣ40指数（フランス）	＋18.5%		
米ドル／円　110円74銭（前作成期末103円65銭）		ユーロ／円　132円11銭（同126円10銭）	

※株価指数の騰落率は当作成期末時点（対前作成期末比）、米ドル／円およびユーロ／円は当作成期末の数値です。

＜株式市場＞

当作成期の世界各国（エマージング国を除く）の株式市場は、上昇しました。

前半は、米国でバイデン新政権による追加経済対策が推進されたこと、各国で新型コロナウイルスワクチン（以下、ワクチン）の接種が進展し、経済活動の再開期待が高まったことなどにより、株式市場は上昇基調となりました。後半は、米国における数兆ドル規模の財政支出に伴うインフレ懸念などの高まりから株式市場が一時的に下落する局面がありましたが、その後米国長期金利が低下したことなどから、株式市場は上昇基調に転じました。当作成期を通して見ると、ワクチン接種の進展に伴った経済活動の再開が進んだこと、米連邦準備理事会（ＦＲＢ）を始めとする主要中央銀行による大規模な金融緩和政策の長期化の見通しが好感されたことなどにより、株式市場は上昇しました。

＜為替市場＞

当作成期の米ドル／円レートは、上昇しました。米国におけるワクチン接種が進展し、全米各州で経済活動の再開が図られたこと、景気回復に伴うインフレ拡大懸念により長期金利が上昇したことなどを背景に、円安／米ドル高となりました。

当作成期のユーロ／円レートは、上昇しました。ユーロは新型コロナウイルスの感染再拡大から下落する局面もありましたが、ワクチン接種が進展し欧州全体で経済活動の再開が進んだこと、欧州中央銀行（ＥＣＢ）がパンデミック緊急購入プログラム（ＰＥＰＰ）での資産購入を増額し、緩和的な金融政策姿勢が維持されたことなどを背景に、円安／ユーロ高となりました。

当ファンドのポートフォリオ

（2020年12月24日～2021年6月23日）

主として、インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）に投資を行い、マザーファンドを通じて、日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式の中から、独自のバリュー・アプローチによりグローバル比較で見た割安銘柄を厳選し投資を行いました。また、実質外貨建資産の投資に当たっては、為替ヘッジをすることで為替変動リスクの低減を図りました。

マザーファンドでは、独自の財務分析、経営力、ビジネス評価などのファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価などに基づくボトムアップ・アプローチによって銘柄を厳選し、ポートフォリオを構築しました。株式組入比率は、作成期を通じて高位を維持しました。セクター別では、主に「金融」「生活必需品」をオーバーウェイトとしました。一方、「情報技術」「ヘルスケア」をアンダーウェイトとし、「素材」「公益事業」は非保有としました。当作成期間中、強固な財務基盤や高い競争優位性を持つ企業の株

式を中心に、新規に組み入れを行いました。世界的なブランドと強固な営業基盤から、中流階級の増加や、新興国における消費の拡大による恩恵を享受できると判断したNESTLE（スイス／食品・飲料・タバコ）、大規模な鉄道インフラ整備によって成長が期待される貨物鉄道大手のUNION PACIFIC（米国／運輸）などを新規で購入しました。一方、より魅力的な投資機会への投資を行うためBRISTOL-MYERS SQUIBB（米国／医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）や、株価上昇により十分な利益を得られたと判断したNEXT（英国／小売）などを全売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2020年12月24日～2021年6月23日）

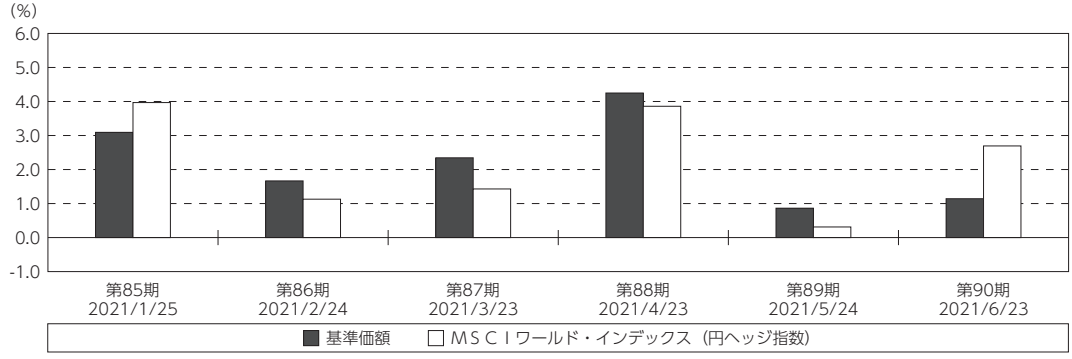
当作成期の分配金再投資基準価額騰落率は＋14.1%となり、ベンチマークであるＭＳＣＩワールド・インデックス（円ヘッジ指数）の騰落率＋14.1%と同水準となりました。

当作成期は、セクター別では、セクター別配分効果がプラスに影響した一方で、銘柄選択効果はマイナスに影響しました。セクター別配分効果については、「金融」の組入比率をベンチマークより高めとしたことや、「公益事業」を非保有としたことがプラス要因となった一方、「生活必需品」の組入比率をベンチマークより高めとしたことや、「コミュニケーション・サービス」の組入比率をベンチマークより低めとしたことがマイナス要因となりました。銘柄選択効果については、「コミュニケーション・サービス」や「情報技術」の銘柄選択がプラス要因となった一方、「金融」や「ヘルスケア」の銘柄選択がマイナス要因となりました。

国別では、国別配分効果と銘柄選択効果共にプラスに影響しました。国別配分効果については、「日本」の組入比率をベンチマークより低めとしたことや、「英国」の組入比率をベンチマークより高めとしたことがプラス要因となった一方、「スイス」の組入比率をベンチマークより高めとしたことや、「フランス」の組入比率をベンチマークより低めとしたことがマイナス要因となりました。銘柄選択効果については、「米国」や「スウェーデン」の銘柄選択がプラス要因となった一方、「オランダ」や「カナダ」の銘柄選択がマイナス要因となりました。

実質外貨建資産については、為替ヘッジをしていたことから、為替の効果によるベンチマークとの差異は限定的でした。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。
（注）ＭＳＣＩワールド・インデックス（円ヘッジ指数）は、ベンチマークです。

分配金

（2020年12月24日～2021年6月23日）

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況環境などを勘案し、第85期から第90期まで合計で1万口当たり400円（税込み）とさせていただきました。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項　　目	第85期	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
	2020年12月24日～2021年1月25日	2021年1月26日～2021年2月24日	2021年2月25日～2021年3月23日	2021年3月24日～2021年4月23日	2021年4月24日～2021年5月24日	2021年5月25日～2021年6月23日
当期分配金	40	40	120	40	40	120
（対基準価額比率）	0.337%	0.333%	0.978%	0.316%	0.314%	0.935%
当期の収益	－	－	－	－	－	－
当期の収益以外	40	40	120	40	40	120
翌期繰越分配対象額	6,561	6,720	6,877	7,337	7,399	7,418

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてマザーファンドへの投資を通じて日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式の中から、独自のバリュー・アプローチにより、グローバル比較で見た割安銘柄を厳選し投資を行います。実質外貨建資産への投資に当たっては、原則として為替ヘッジをすることで為替変動リスクの低減を図ります。

マザーファンドでは、独自の財務分析、経営力、ビジネス評価などのファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価などに基づくボトムアップ・アプローチによって銘柄を厳選し、ポートフォリオを構築します。エマージング諸国を除く、世界に点在する企業の中から、国籍にかかわらず、ビジネス・モデルと経営陣の資質が優れていると判断した企業を発掘します。特に着目している企業の特色は、フリー・キャッシュフロー創出力と株主還元を踏まえた、配当成長力です。また、銘柄数を厳選し、長期的視点から投資を行う方針です。今後も、株価バリュエーション判断を重視し、相対的に割安度が高いと判断した銘柄への組み替えを行っていきます。

お知らせ

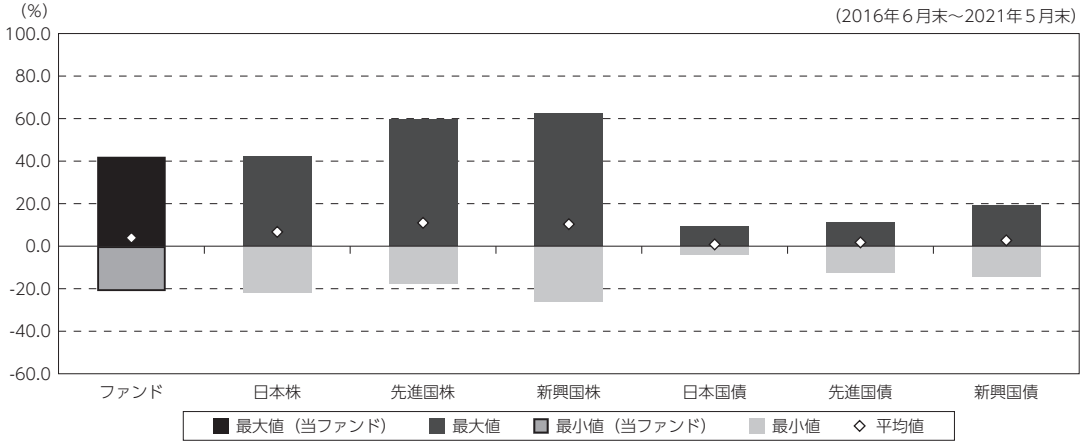
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	・「インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド」受益証券を主要投資対象とし、投資信託財産の長期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。 ・ＭＳＣＩワールド・インデックス（円ヘッジ指数）をベンチマークとします。	
主要投資対象	インベスコ　世界厳選株式オープン<為替ヘッジあり>（毎月決算型）	インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド	日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式を主要投資対象とします。
運用方法	・主としてマザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式の中から、独自のバリュー・アプローチによりグローバル比較で見た割安銘柄を厳選し投資します。 ・銘柄選択にあたっては、独自の財務分析、経営力、ビジネス評価等ファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価等に基づくボトムアップ・アプローチにより行います。 ・実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。	
分配方針	・原則として毎月の決算時（毎月23日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額の水準、市況環境等を勘案し、分配金額を決定します。 ・毎年３月、６月、９月、12月の決算時には、委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。 ・分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合もあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：%）

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	3.9	6.7	11.0	10.3	0.8	1.8	2.7
最大値	42.1	42.1	59.8	62.7	9.3	11.4	19.3
最小値	−21.1	−22.0	−17.5	−26.0	−4.0	−12.3	−14.5

（注）すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注）2016年6月から2021年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。
（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
（注）当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》
日 本 株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
日本国債：NOMURA － BPI国債
先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
新興国債：JPモルガンGBI － EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P22の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2021年6月23日現在）

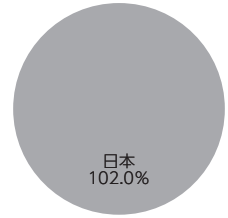
○組入上位ファンド

銘　柄　名	第90期末
	%
インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド	102.0
組入銘柄数	1銘柄

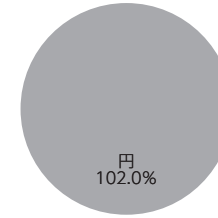
（注）比率は純資産総額に対する割合です。
（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

○資産別配分

○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は純資産総額に対する割合です。
（注）国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

純資産等

項　　目	第85期末	第86期末	第87期末	第88期末	第89期末	第90期末
	2021年１月25日	2021年２月24日	2021年３月23日	2021年４月23日	2021年５月24日	2021年６月23日
純資産総額	2,299,739,631円	2,352,243,225円	2,376,732,744円	2,540,401,197円	2,620,637,844円	2,669,094,401円
受益権総口数	1,944,606,444口	1,963,047,465口	1,957,064,428口	2,012,919,612口	2,065,296,130口	2,099,271,723口
１万口当たり基準価額	11,826円	11,983円	12,144円	12,620円	12,689円	12,714円

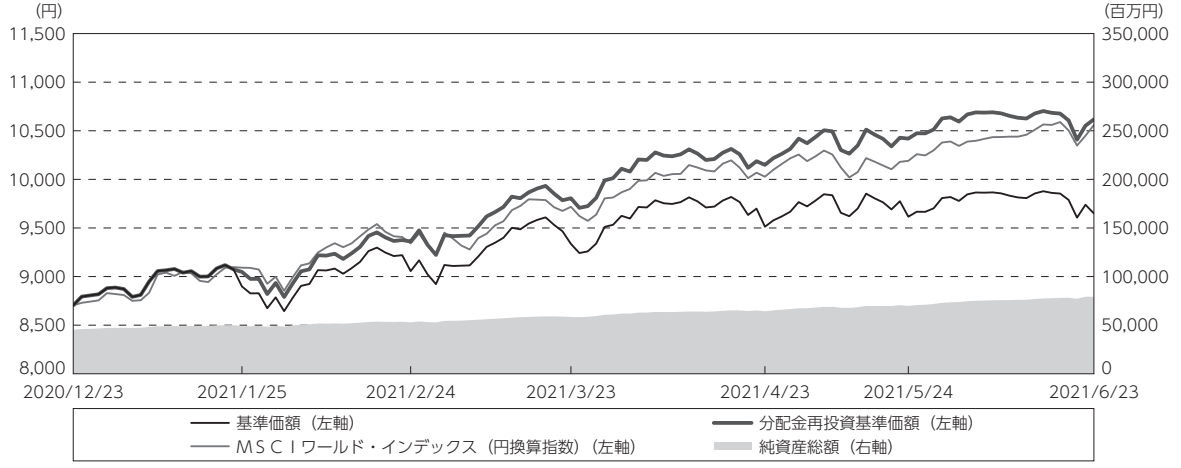
＊作成期間（第85期～第90期）中における追加設定元本額は557,754,726円、同解約元本額は398,642,721円です。

インベスコ　世界厳選株式オープン＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2020年12月24日～2021年6月23日）



第85期首：8,704円
第90期末：9,649円（既払分配金（税込み）：900円）
騰　落　率：　22.0%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）分配金再投資基準価額およびＭＳＣＩワールド・インデックス（円換算指数）は、作成期首（2020年12月23日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）ＭＳＣＩワールド・インデックス（円換算指数）は、ベンチマークです。ベンチマークは、今後、他の指数へ変更されることがあります。ベンチマークの詳細は22ページをご参照ください。以下、同じです。

○基準価額の主な変動要因

［上昇要因］

・日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式を実質的な主要投資対象としているため、ポートフォリオにおいて投資対象市場が概ね上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
・独自の財務分析、経営力、ビジネス評価などのファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価などに基づくボトムアップ・アプローチにより銘柄選択を行った結果、ALPHABET INC（米国／メディア・娯楽）、JPMORGAN CHASE & CO（米国／銀行）、ASHTEAD GROUP（英国／資本財）などの株価の上昇が、基準価額の上昇要因となりました。

［下落要因］

・PROSUS NV（オランダ／小売）、AUTOMATIC DATA PROCESSING（米国／ソフトウェア・サービス）などの株価が保有期間に下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

（2020年12月24日～2021年6月23日）

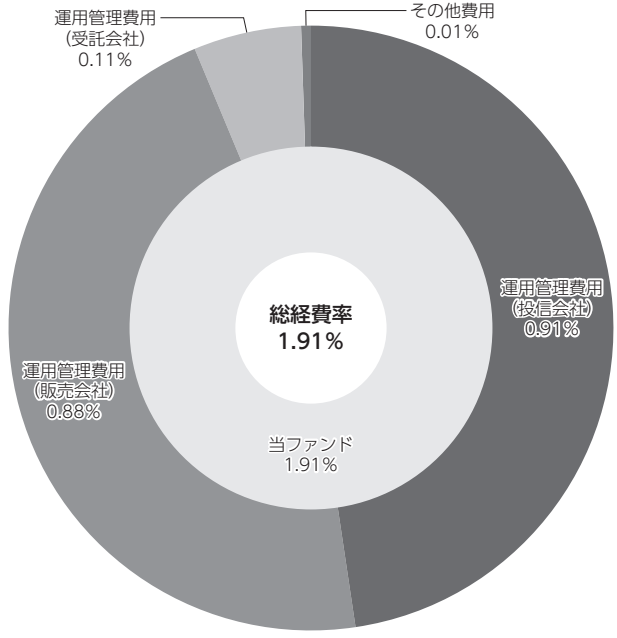
項目	第85期～第90期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	88	0.949	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(42)	(0.455)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
（販売会社）	(41)	(0.439)	購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（受託会社）	(5)	(0.055)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.015	(b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式）	(1)	(0.015)	
（投資信託証券）	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	4	0.040	(c) 有価証券取引税＝作成期間の有価証券取引税÷作成期間の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株式）	(4)	(0.040)	
(d) その他費用	1	0.007	(d) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.003)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	(0)	(0.003)	印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等
合計	94	1.011	
作成期間の平均基準価額は、9,317円です。			

（注）作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
（注）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

（参考情報）

◯総経費率

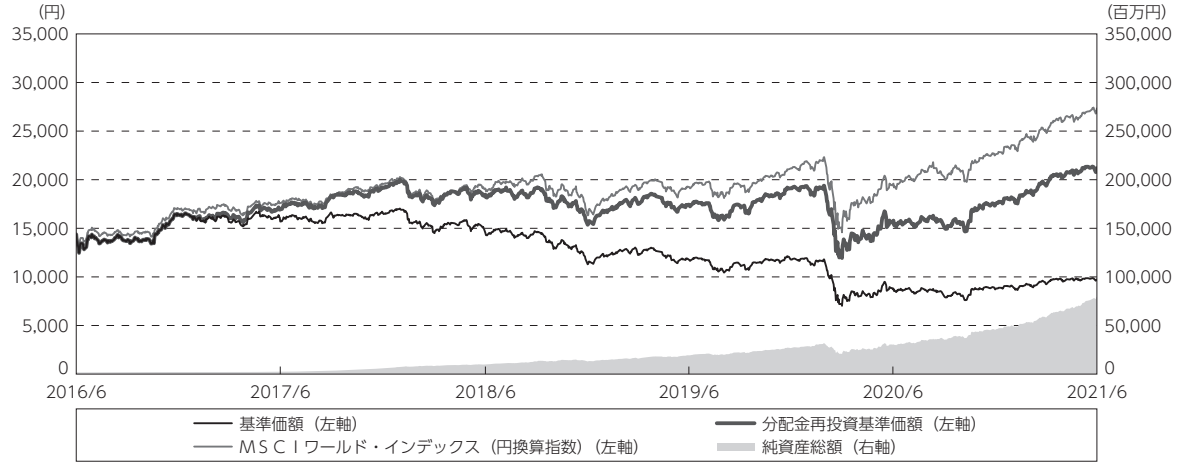
作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.91％です。



(注) 当ファンドの費用は１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
(注) 各比率は、年率換算した値です。
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。
(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近５年間の基準価額等の推移

（2016年６月23日～2021年６月23日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）分配金再投資基準価額およびＭＳＣＩワールド・インデックス（円換算指数）は、2016年６月23日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2016年６月23日 決算日	2017年６月23日 決算日	2018年６月25日 決算日	2019年６月24日 決算日	2020年６月23日 決算日	2021年６月23日 決算日
基準価額　(円)	14,381	15,694	14,515	11,774	8,724	9,649
期間分配金合計(税込み)　(円)	－	1,220	2,580	1,950	1,950	1,800
分配金再投資基準価額騰落率　(%)	－	17.8	9.0	△ 5.6	△ 10.2	35.4
ＭＳＣＩワールド･インデックス(円換算指数)騰落率　(%)	－	22.4	8.4	0.9	1.4	40.1
純資産総額　(百万円)	1,997	2,327	9,633	19,319	30,245	79,174

（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。
（注）ＭＳＣＩワールド・インデックス（円換算指数）は、ベンチマークです。

投資環境

（2020年12月24日～2021年6月23日）

ＴＯＰＩＸ（東証株価指数）（日本）	＋10.4%	Ｓ＆Ｐ500指数（米国）	＋15.0%
ＦＴＳＥ100指数（英国）	＋8.9%	ＤＡＸ指数（ドイツ）	＋13.8%
ＣＡＣ40指数（フランス）	＋18.5%		
米ドル／円　110円74銭（前作成期末103円65銭）		ユーロ／円　132円11銭（同126円10銭）	

※株価指数の騰落率は当作成期末時点（対前作成期末比）、米ドル／円およびユーロ／円は当作成期末の数値です。

＜株式市場＞

当作成期の世界各国（エマージング国を除く）の株式市場は、上昇しました。

前半は、米国でバイデン新政権による追加経済対策が推進されたこと、各国で新型コロナウイルスワクチン（以下、ワクチン）の接種が進展し、経済活動の再開期待が高まったことなどにより、株式市場は上昇基調となりました。後半は、米国における数兆ドル規模の財政支出に伴うインフレ懸念などの高まりから株式市場が一時的に下落する局面がありましたが、その後米国長期金利が低下したことなどから、株式市場は上昇基調に転じました。当作成期を通して見ると、ワクチン接種の進展に伴った経済活動の再開が進んだこと、米連邦準備理事会（ＦＲＢ）を始めとする主要中央銀行による大規模な金融緩和政策の長期化の見通しが好感されたことなどにより、株式市場は上昇しました。

＜為替市場＞

当作成期の米ドル／円レートは、上昇しました。米国におけるワクチン接種が進展し、全米各州で経済活動の再開が図られたこと、景気回復に伴うインフレ拡大懸念により長期金利が上昇したことなどを背景に、円安／米ドル高となりました。

当作成期のユーロ／円レートは、上昇しました。ユーロは新型コロナウイルスの感染再拡大から下落する局面もありましたが、ワクチン接種が進展し欧州全体で経済活動の再開が進んだこと、欧州中央銀行（ＥＣＢ）がパンデミック緊急購入プログラム（ＰＥＰＰ）での資産購入を増額し、緩和的な金融政策姿勢が維持されたことなどを背景に、円安／ユーロ高となりました。

当ファンドのポートフォリオ

（2020年12月24日～2021年6月23日）

主として、インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）に投資を行い、マザーファンドを通じて、日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式の中から、独自のバリュー・アプローチによりグローバル比較で見た割安銘柄を厳選し投資を行いました。また、実質外貨建資産の投資に当たっては、為替ヘッジを行いませんでした。

マザーファンドでは、独自の財務分析、経営力、ビジネス評価などのファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価などに基づくボトムアップ・アプローチによって銘柄を厳選し、ポートフォリオを構築しました。株式組入比率は、作成期を通じて高位を維持しました。セクター別では、主に「金融」「生活必需品」をオーバーウェイトとしました。一方、「情報技術」「ヘルスケア」をアンダーウェイトとし、「素

材」「公益事業」は非保有としました。当作成期間中、強固な財務基盤や高い競争優位性を持つ企業の株式を中心に、新規に組み入れを行いました。世界的なブランドと強固な営業基盤から、中流階級の増加や、新興国における消費の拡大による恩恵を享受できると判断したNESTLE（スイス／食品・飲料・タバコ）、大規模な鉄道インフラ整備によって成長が期待される貨物鉄道大手のUNION PACIFIC（米国／運輸）などを新規で購入しました。一方、より魅力的な投資機会への投資を行うためBRISTOL-MYERS SQUIBB（米国／医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）や、株価上昇により十分な利益を得られたと判断したNEXT（英国／小売）などを全売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

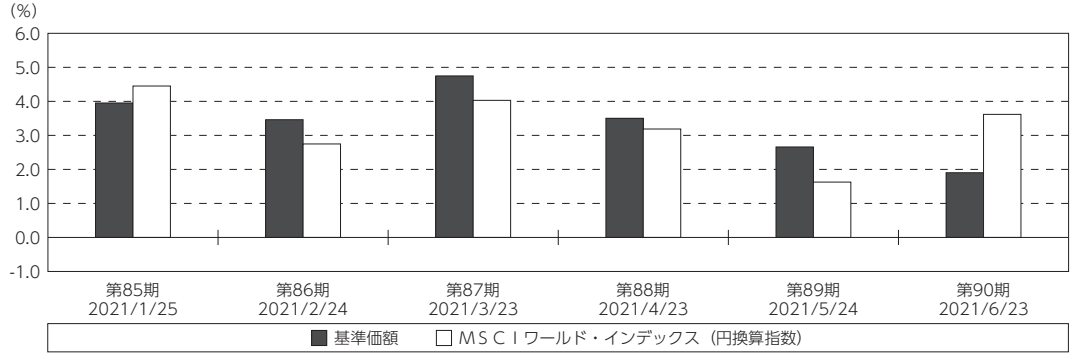
（2020年12月24日～2021年6月23日）

当作成期の分配金再投資基準価額騰落率は＋22.0%となり、ベンチマークであるＭＳＣＩワールド・インデックス（円換算指数）の騰落率＋21.3%を上回る結果となりました。

当作成期は、セクター別では、セクター別配分効果がプラスに影響した一方で、銘柄選択効果はマイナスに影響しました。セクター別配分効果については、「金融」の組入比率をベンチマークより高めとしたことや、「公益事業」を非保有としたことがプラス要因となった一方、「生活必需品」の組入比率をベンチマークより高めとしたことや、「コミュニケーション・サービス」の組入比率をベンチマークより低めとしたことがマイナス要因となりました。銘柄選択効果については、「コミュニケーション・サービス」や「情報技術」の銘柄選択がプラス要因となった一方、「金融」や「ヘルスケア」の銘柄選択がマイナス要因となりました。

国別では、国別配分効果と銘柄選択効果共にプラスに影響しました。国別配分効果については、「日本」の組入比率をベンチマークより低めとしたことや、「英国」の組入比率をベンチマークより高めとしたことがプラス要因となった一方、「スイス」の組入比率をベンチマークより高めとしたことや、「フランス」の組入比率をベンチマークより低めとしたことがマイナス要因となりました。銘柄選択効果については、「米国」や「スウェーデン」の銘柄選択がプラス要因となった一方、「オランダ」や「カナダ」の銘柄選択がマイナス要因となりました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。
（注）ＭＳＣＩワールド・インデックス（円換算指数）は、ベンチマークです。

分配金

（2020年12月24日～2021年6月23日）

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況環境などを勘案し、第85期から第90期まで合計で1万口当たり900円（税込み）とさせていただきました。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項　　目	第85期	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
	2020年12月24日～2021年1月25日	2021年1月26日～2021年2月24日	2021年2月25日～2021年3月23日	2021年3月24日～2021年4月23日	2021年4月24日～2021年5月24日	2021年5月25日～2021年6月23日
当期分配金	150	150	150	150	150	150
（対基準価額比率）	1.658%	1.629%	1.581%	1.552%	1.536%	1.531%
当期の収益	－	－	－	－	－	－
当期の収益以外	150	150	150	150	150	150
翌期繰越分配対象額	8,339	8,492	8,751	8,900	8,986	9,000

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてマザーファンドへの投資を通じて日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式の中から、独自のバリュー・アプローチにより、グローバル比較で見た割安銘柄を厳選し投資を行います。実質外貨建資産への投資に当たっては、原則として為替ヘッジを行わない方針です。

マザーファンドでは、独自の財務分析、経営力、ビジネス評価などのファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価などに基づくボトムアップ・アプローチによって銘柄を厳選し、ポートフォリオを構築します。エマージング諸国を除く、世界に点在する企業の中から、国籍にかかわらず、ビジネス・モデルと経営陣の資質が優れていると判断した企業を発掘します。特に着目している企業の特色は、フリー・キャッシュフロー創出力と株主還元を踏まえた、配当成長力です。また、銘柄数を厳選し、長期的視点から投資を行う方針です。今後も、株価バリュエーション判断を重視し、相対的に割安度が高いと判断した銘柄への組み替えを行っていきます。

お知らせ

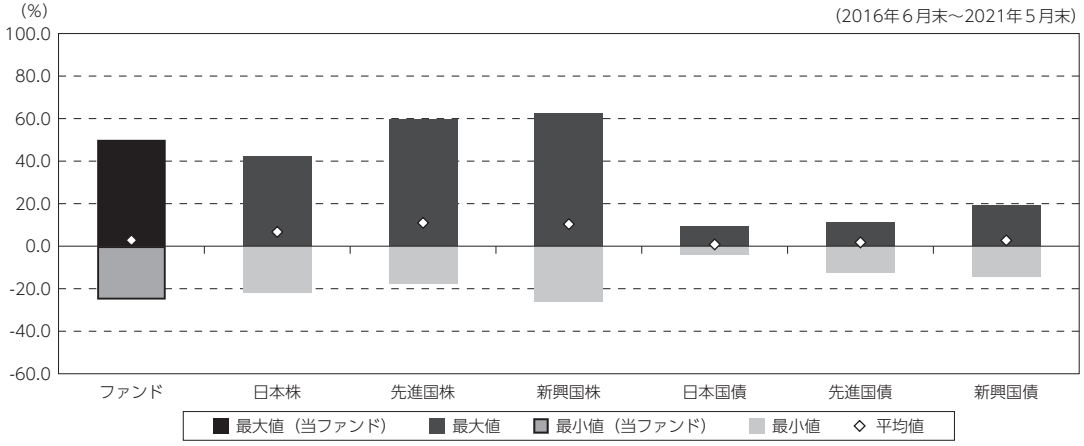
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	・「インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド」受益証券を主要投資対象とし、投資信託財産の長期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。 ・ＭＳＣＩワールド・インデックス（円換算指数）をベンチマークとします。	
主要投資対象	インベスコ　世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>（毎月決算型）	インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド	日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式を主要投資対象とします。
運用方法	・主としてマザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式の中から、独自のバリュー・アプローチによりグローバル比較で見た割安銘柄を厳選し投資します。 ・銘柄選択にあたっては、独自の財務分析、経営力、ビジネス評価等ファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価等に基づきボトムアップ・アプローチにより行います。 ・実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行いません。	
分配方針	・原則として毎月の決算時（毎月23日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額の水準、市況環境等を勘案し、分配金額を決定します。 ・毎年３月、６月、９月、12月の決算時には、委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。 ・分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合もあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：%）

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	2.8	6.7	11.0	10.3	0.8	1.8	2.7
最大値	50.0	42.1	59.8	62.7	9.3	11.4	19.3
最小値	−25.1	−22.0	−17.5	−26.0	−4.0	−12.3	−14.5

（注）すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注）2016年6月から2021年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。
（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
（注）当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》
日 本 株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
日本国債：NOMURA － BPI国債
先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
新興国債：JPモルガンGBI － EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P22の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2021年6月23日現在）

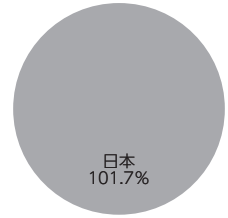
○組入上位ファンド

銘　柄　名	第90期末
	%
インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド	101.7
組入銘柄数	1銘柄

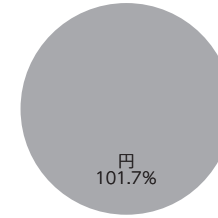
（注）比率は純資産総額に対する割合です。
（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

○資産別配分

○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は純資産総額に対する割合です。
（注）国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

純資産等

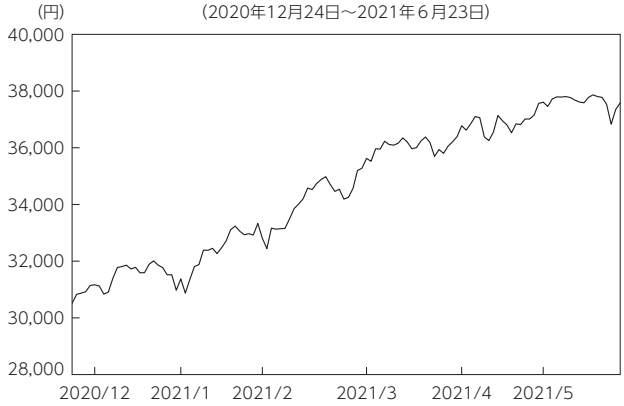
項　　目	第85期末	第86期末	第87期末	第88期末	第89期末	第90期末
	2021年１月25日	2021年２月24日	2021年３月23日	2021年４月23日	2021年５月24日	2021年６月23日
純資産総額	49,035,924,274円	52,864,880,049円	58,427,576,319円	64,300,299,440円	69,877,343,913円	79,174,848,578円
受益権総口数	55,108,007,521口	58,373,384,397口	62,584,379,915口	67,594,376,101口	72,666,738,150口	82,051,888,762口
１万口当たり基準価額	8,898円	9,056円	9,336円	9,513円	9,616円	9,649円

＊作成期間（第85期～第90期）中における追加設定元本額は37,800,116,418円、同解約元本額は7,794,502,039円です。

組入上位ファンドの概要

インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2020年12月24日～2021年6月23日)

項目	当期 金額	当期 比率
	円	%
(a) 売買委託手数料	5	0.015
(株式)	(5)	(0.015)
(投資信託証券)	(0)	(0.000)
(b) 有価証券取引税	14	0.040
(株式)	(14)	(0.040)
(c) その他費用	1	0.003
(保管費用)	(1)	(0.003)
合計	20	0.058
期中の平均基準価額は、34,226円です。		

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

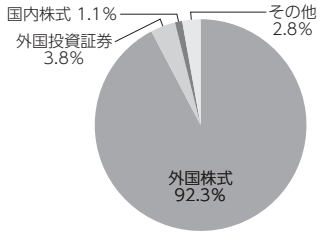
【組入上位10銘柄】

(2021年6月23日現在)

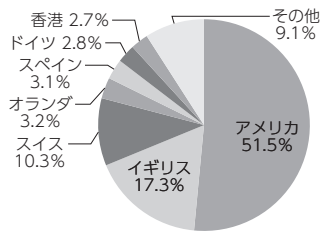
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	MICROSOFT	ソフトウェア・サービス	米ドル	アメリカ	4.5
2	COCA-COLA	食品・飲料・タバコ	米ドル	アメリカ	4.1
3	JPMORGAN CHASE & CO	銀行	米ドル	アメリカ	4.0
4	ALPHABET INC-CL C	メディア・娯楽	米ドル	アメリカ	3.9
5	TEXAS INSTRUMENTS	半導体・半導体製造装置	米ドル	アメリカ	3.9
6	AMERICAN TOWER	投資証券	米ドル	アメリカ	3.8
7	PROGRESSIVE	保険	米ドル	アメリカ	3.8
8	3I GROUP	各種金融	英ポンド	イギリス	3.3
9	PROSUS NV	小売	ユーロ	オランダ	3.2
10	AMERICAN EXPRESS	各種金融	米ドル	アメリカ	3.1
組入銘柄数		41銘柄			

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注) 国（地域）につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

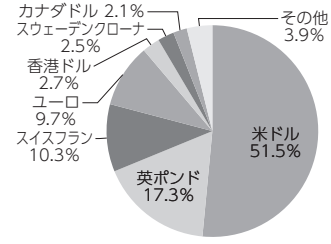
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。
(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。
(注) その他には現金等を含む場合があります。
※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

＜当ファンドのベンチマークについて＞

＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）
ベンチマークとしてMSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数）を使用しています。基準日前営業日の円ヘッジ指数を用いています。なお、日次ベース開示開始日を100として当社で独自に指数化しています。
MSCIワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を含む世界の先進国で構成されています。
また、MSCIワールド・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

＜為替ヘッジなし＞（毎月決算型）
ベンチマークとしてMSCIワールド・インデックス（円換算指数）を使用しています。基準日前営業日の米ドル建て指数を基準日の対顧客電信売買相場仲値を用いて当社で独自に円換算しています。
MSCIワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を含む世界の先進国で構成されています。
また、MSCIワールド・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。
TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM／ロイター値）を乗じて算出しています。

○NOMURA － BPI国債
NOMURA － BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA － BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガンGBI － EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）
JPモルガンGBI － EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI － EMグローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM／ロイター値）を乗じて算出しています。
指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利はJPMorgan Chase & Co.及び関係会社（「JPモルガン」）に帰属しております。JPモルガンは、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
JPモルガンは、指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドを推奨するものでもなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。